



腹腔鏡下避妊手術

対象 雌犬・雌猫	手術時間 20～40 分	入院 原則 当日退院	麻酔 全身麻酔
-------------	-----------------	---------------	------------

■ どんな手術？

お腹に小さな穴を2か所あけ（通常2ポート、切開3～5mm）、カメラと細い器具を入れて卵巣を摘出する低侵襲手術です。従来の開腹手術と同じ避妊効果がありながら、傷が小さく、術後の痛みが少なく、回復が早いのが特長です。当院では原則として卵巣のみを摘出します（卵巣摘出術）。

■ この手術が必要なとき

- ・避妊・繁殖制限
- ・乳腺腫瘍を発症する可能性を下げる（初回発情前が最も効果的）
- ・子宮蓄膿症・偽妊娠など発情に関連する病気の予防
- ・卵巣嚢腫・卵巣腫瘍の治療

■ 手術の流れ

- ① 全身麻酔をかけ、気管挿管を行います
- ② お腹に3～5mmの小切開を2か所あけます（2ポート）
- ③ 二酸化炭素ガスでお腹を膨らませ、視野を確保します（気腹）
- ④ カメラで腹腔内を確認し、卵巣の位置を特定します
- ⑤ 専用器具で卵巣の血管を止血・切断し、摘出します
- ⑥ ポートを抜き、小切開を縫合して終了します

■ 麻酔について

全身麻酔で行います。手術前に血液検査などで全身状態を確認し、麻酔のリスクを評価したうえで実施します。手術中はモニターで呼吸と循環を継続的に管理します。

■ 入院・退院の日安

低侵襲手術のため、原則として当日退院です。体調や手術内容によっては1泊することもあります。退院後しばらくはエリザベスカラーまたは術後服（ウェア）で傷を舐めないようにします。

■ 術後のケア

- ・抜糸は7～10日後が目安です（吸収糸の場合は不要なこともあります）
- ・術後7～10日は激しい運動・シャンプーを控え、安静に過ごします
- ・術後3～5日は食欲が落ちることがありますが、徐々に戻れば問題ありません
- ・卵巣摘出後は太りやすくなるため、食事量の調整をお勧めします

■ 起こりうるリスク・合併症

- ・出血（まれ）
- ・皮下気腫（ガスが皮膚の下に入る。多くは自然に消えます）
- ・感染・縫合部の離開
- ・周囲臓器の損傷（まれ）
- ・腹腔鏡から開腹手術への移行（まれ）

■ よくある質問

Q. 開腹手術と何が違いますか？

A. 傷が数 mm と小さく、術後の痛みが少なく回復が早いのが違いです。

Q. いつ受けるのがよいですか？

A. 初回発情を迎える前（生後 6～7 ヶ月頃）が最もお勧めです。乳腺腫瘍の予防効果が高くなります。発情中は出血しやすいため避け、発情が終わって 4～8 週ほど経ってからが目安です。

Q. 子宮も摘出しますか？

A. 当院は原則として卵巣のみを摘出します。子宮疾患のリスクが気になる場合はご相談ください。

Q. 太りやすくなりますか？

A. 卵巣摘出後は代謝が落ちるため太りやすくなります。食事量の調整で管理できます。

■ なつ動物病院での対応について

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください